

子供をどんな人間に育てたいですか

二十数年前、へき地上番で松尾小学校に転入してきた私。前任校で生徒指導に手を焼くことが多かったせいか、当初、純粋で素直な子供たちを目の当たりにして、(天使じゃなかろうか!?)と衝撃を受けたことを今でも覚えています。

そんなある日、PTA懇親会の席上で「何て素晴らしい子供たちでしょう。感激しました!」と話題を振った私に、保護者の皆さんが口を揃えて、次のように話をされました。

「先生、そんな褒めんといて。親元を離れて高校に行くようになったら、純粋かゆえに脱線する子が多いとよ。だから、先生達には『周りに惑わされずに、目標を見据えて、たくましく自分らしく生きていく人間』に育ててもらいたいとよ。」

そして、四半世紀を経た今、教え子達が親世代となった椎葉に再上番してきた私。祖父母世代の人からは、同じこと(上記)を久しぶりに聞きましたが、親世代からは特に聞いていません。混沌とした時代、価値観の多様化した時代、「どんな人間に育てたいですか」の答え(願い)は、その有る無しも含めて一点に定まらないのかもしれません。

多様な価値観の狭間で

私が学校だよりを執筆するタイミングは、およそ、感動や衝撃で感情・思いが高ぶったとき、あるいは、悶々とした思考が続いて疑問符が爆発しそうなときです。今回は後者に当たっています。

「子供たちを、どんな人間に育てるか」というテーマは、校長として避けて通れない課題でありまして、学校運営協議会でも1丁目1番地に挙げさせていただいている。

公立かつ義務教育段階にある小学校では、「学習指導要領」という準法律や検定教科書に基づいて教育を行わなければならぬことから、さほど学校間の差は出ません。しかし、内容や方法は示されても、実際の運用の部分は「地域の実態等に応じて各学校の特色を出しながら行うこと」となっていますので、校長は重い荷を背負うことになります。どんな人間を育成するか、そのためにどんな教育に重点を置くか等については、広い視野や先見の明をもって方向を見定めていくことになります。そのため校長は、様々なことを学ぶ必要があると考えています。

ただ、思うのです。これだけ多様化した社会において、「時代や社会の要請」とか言いながら、続けざまに、ありとあらゆる分野で新たな方針や施策を打ち出されると、ふつう、惑わされるのではないか?SDGs、LDGP、GIGAスクール、プログラミング教育…と、学習内容をどんどんかさ増ししていくので、現場は軽重をつけない限りとてもこなしきれません。では、何を軽く、何を重く取り扱えばよいのでしょうか?

一椎葉を出た青年が、大海に乗り出し、初めて知る・出会うものに対して、一つ一つその向き合い方を決めていくー

今の私(学校現場)の悶々は、親元を離れて独り立ちに向かう椎葉の青年たちの思いと被る部分があるのでは?それならば今の私が迷いを断ち切るために「大切にしようとしているもの」が活かせるのではないか?と、ふと思うのです。

そもそも…=本質を見る

そもそも、迷いの根源の一つは「情報」にあります。情報社会は今や、情報過多社会、情報洪氾社会、情報氾濫社会と様々な言い回しがされるようになりました。情報は知的欲求を満たす等の多くの利点を有する一方、プライバシーの侵害、フェイクニュース、漏洩、依存等の多くの弊害ももたらします。

皆さんは、情報を得るために簡便な「メディア」を多く活用されていると思いますが、(ん♪?)と疑問符がつくことはありませんか?私は先日、考えさせられたことがあります。

『全国初 宮崎に 線状降水帯の発生予報が出る!』というニュースが全国ネットのTV情報番組で取り上げられた時のことです。

予報が出たのは知っていたので、(用心しなきゃ)とは思っていましたが、イメージしていたような大雨には全然なりません。(予報が外れたのか?)と思っていたところの、夕方の全国ニュースです。「降りしきる雨の中、川になった道路を徐行する車」の映像とともに、『全国初 宮崎に 線状降水帯の発生予報が出る!』のテロップやアナウンスが流れているではありませんか。撮影された場所は我が家から5kmほど離れた場所のようです。近郊の知り合いに「雨、酷かった?」と聞いてみると、口を揃えて「ぜんぜん!」の反応。(なんじゃこりゃ?)

さすがに嘘の情報は流していないでしょうから、映像は確かに撮れたのでしょう。ニュースを見て心配した県外に住む子供や友人から「大丈夫?」の電話やメールが次々に届きます。

「ぜんぜん問題なしょ!」

どういうことか、お分かりになりますか?そもそも、ニュースは、非日常的なトピックやイベントなどを取り上げて、視聴者の興味・関心を引くような編成がされています。今回は「線状降水帯の発生予報が出るようになった!」というトピックありきで、これをインパクトのある情報として伝えるためには、それに見合った映像・画像が欲しいわけです。ですから取材班は、その画を撮るために奔走し、まさに「ゲット」してくるのです。私のような「大したことありませんでしたよ。」ではなく、雨の降りしきる中で「うあー、たいへんです!」というコメントが欲しいわけです。

つまり、ニュースは、発信者の意図により切り貼りされた情報です。事実ではありますが、それは一部であって全体を網羅していない場合があります。また、事実は見方・考え方次第で様々な姿に捉えられるので、発信者の意図により強調(大げさに)して伝えられることもあります。

例えば、「〇〇の母」という子育てに苦労している母の姿を見せて感動や共感を呼ばうとする番組がたまに放映されます。取材された母親をよく知る人の話によると、「良いところだけ取り上げて編集されていて実像はとんでもない人なのよ!」とあきれている様子。中にはそんな人もいるんですね。情報は、伝え方によって「善人を悪人に、悪人を善人に」仕立て上げることも可能なのです。(歴史上の人物の多くはそうだと言われています。)

私が「大切にしようとしているもの」は「情報を鵜呑みにせず、自分の頭で納得がいくまで考えること」です。与えられた一つの情報だけで理解したり判断したりすることは、これから「多様化する社会」でたくましく生きていくことは難しいと思います。学校経営ビジョン(スローガン)に掲げた『つながりを学ぶ』には、その思いを込めたつもりです。